

平成24年度第3回平塚市文化振興委員会会議録

【日時】平成25年 3月15日(金) 14:00~15:30

【会場】平塚市民センター2階 くすの木

【出席者】

委員10名：石川幹夫委員、岩崎由紀子委員、牛田洋子委員、片山興大委員、小中山彰委員長、中野恵子委員、平岡喜久雄委員、平野恵美子副委員長、森伸一委員、関本耕司委員

事務局3名：文化・交流課長 課長代理 担当者

傍聴人：なし

【配布資料】

- 1 平成24年度第3回次第
- 2 第2回会議録
- 3 資料①平成24年度基金活用事業報告
- 4 資料②文化関連事業一覧
- 5 資料③平成25年度基金活用事業案

1. 開会

文化・交流課長

2. 前回会議録の確認

質問・意見等なし

3. 議題

(1)平成24年度文化事業報告

資料①平成24年度基金活用事業報告

資料②文化関連事業一覧

○囲碁の魅力にふれる事業として「囲碁教養講座」を2月23日に実施した。また、プロに教わる囲碁教室は昨年
から引き続き毎月3回で水曜日、土曜日に実施している。

○八幡山の洋館でのアマチュアコンサートを支援。運営のための消耗品費を基金から支出した。

○アウトリーチ実施校が6校になり、11月~1月で実施した。メニューは2種類で、昨年度実施したバイオリン
奏者の早稲田さんと、ピアノ連弾のプロの二人組のデュエットウさんが来校した。

○学校に積極的に演奏の場を作っていくために、先生方の理解を深めるためアウトリーチ講座を実施した。これ
からアウトリーチを行いたいという学校の先生にも参加していただけた。また、八幡山洋館コンサートの出演
者も一部興味を示してくれたため、2組に参加してもらった。

○(公財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の参加・創造型事業、普及・振興事業に活用した。参加者、入
場者は関連する事業の合計だが、年度途中のため概算である。

○市役所庁内で実施されている文化関連事業を平成22年に調査した。当時約200事業を抽出したが、ハードの維
持管理の事業等も含まれていた。文化振興に直接的に関わりが深いものに絞り、平成24年度の実施状況をまと
めたものの一覧である。60事業程度になっている。効果の測定方法、事業の見直し方法等について検討する資
料としたい。

質問・意見等

委員：プロに教わる囲碁教室に通っている生徒の内訳はどのようなものか。小学生も来ているのか。また子ど
も向けの囲碁教室は実施されているのか。小さなうちからこういったものに参加できると効果があると思
う。

事務局：生徒数のみで内訳は未確認である。確認して後でお知らせする。小学生も参加していることは承知している。子ども向けの囲碁教室は毎年春休み、夏休みに初心者を対象に実施している。そこへ参加して続けたいという子どもたちは、通年で行われている囲碁教室へ通うことができる。

委員：以前(公財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の文化事業の中に保育園訪問コンサートというのがあったと思うが、それにも平塚市文化振興基金は活用されているのか。

事務局：保育園訪問コンサートは普及事業のひとつなので活用されている。

委員：アウトリーチ事業の反響はどうだったのか。

事務局：実施した学校の教師、生徒たちにアンケートを行っているが、全ての学校でとても好評だった。近い距離で、本物の音楽に身近に触れることができたという感想や、バイオリンの体験など貴重な経験ができてすばらしかったというような感想が多かった。また学校のカリキュラムを邪魔することなく、音楽の授業の一コマとして実施することも可能であるので、毎年来てほしいという声も届いている。

委員：社会教育課からの呼びかけで文化連盟も協力し、伝統芸能でも同様の事業がスタートし、横内地区で子どもたちの芸術文化体験が実施された。とても好評だったと聞いている。すばらしい事業だと思う。

委員：アウトリーチを実施した小学校の感想を直接聞く機会があったが、本当にすばらしかったと聞いた。6校と言わず、全校で実施できるようになったらよいのではないかと思う。

委員：アウトリーチは1回限りではなく、継続して実施していくとさらに効果があがるのではないか。

事務局：他館では、実際に複数回同じ子どもたちを対象にアウトリーチを実施して、最終的にはそのアーティストのコンサートに合奏で出演するところまで育てるような事業を実施しているところもある。しかし平塚市ではまだすべての学校の要望に応えられていない状況なので、同じ子どもたちに対して何度も実施することは難しいと思う。

委員：学校へ訪問する事業で、伝統芸能のメニューを実施することはできないのか。

事務局：先ほど紹介した社会教育課の事業でも、学校派遣を検討していると聞いている。学校のニーズや受け入れ体制によって今後十分可能性はある。

委員：ぜひいろいろな種類の伝統芸能に触れてもらいたいと思う。種類を少しずつでも増やし、継続して行っていくことが重要だと思う。

委員：高山市、花巻市から七夕まつりのときにやってくる伝統芸能を見ていると、小さな地域ごとによく伝承されていると感じる。平塚市にもそういったものがないわけではなく、伝わっていないだけだと思う。平塚市文化振興指針の目標にも掲げられているし、そのようなものを子どもたちにぜひ受け継いでいてほしい。

(2)平成 25 年度文化事業案

資料③平成 25 年度基金活用事業案

- 囲碁はプロによる教室を継続していく。3年目を迎えるので、効果等を検証し、次年度以降また教室の再編成等検討していく必要がある。普及のための事業内容は未定。
- 引き続き八幡山洋館コンサートの支援、社会教育課との連携を行っていく。
- 市民文化啓発事業では引き続きアウトリーチを実施している。学校からの希望が増えてきているので、1校でも増やして実施したいと考えている。
- (公財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団の文化事業にも引き続き活用していく。

質問・意見等

委員：囲碁教室への女性の参加はどのくらいあるのか。

事務局：大人も子どももかなりの数の女性、女子が参加しているし、女性のための囲碁教室もある。

委員：大人の女性のための初心者囲碁教室は、定員をオーバーするほどの申し込みがあった。先日の級位認定大会でも女性の参加者がとても多いのが特徴的だった。

委員：少し前に広報ひらつかで囲碁の特集を組んでいたのを見た。広報ひらつかの効果は大きかったのではないと思う。

4. 報告事項

(1) 文化振興懇話会への移行について

○平成 25 年から正式に懇話会へ移行する。市長の諮問を受け、採決を取り、結果を市長へ返すという附属機関は根拠を条例化し設置しなければならないという方針で整理された。この委員会は意見交換が主であるので、懇話会として新たにスタートする。

○市が懇話会の皆さんを集め、施策についての意見を聴取する場という位置づけになる。

○委員長を任命しない等の変更点はあるが話これまでのものと大きくは変わらない予定。

○懇話会は各団体に出席者の推薦をお願いする予定である。その際は改めて御協力をお願いいただきたい。

質問・意見等

委員長：会議予定等は未定か。

事務局：現在とほぼ同様で年に 3 回開催したいと考えている。

5. その他

○第 2 回の委員会で、P F I により見附台周辺地区の整備計画を進める予定を説明した。前回の委員会で、他市で同じ手法で開発された例があるかという話が出たので、資料を提供する。実際にいくつも実例があることがわかったので、とくに文化センター等の例を見ていただきたい。P F I の中でも運営をどこがやるかということとさらに細かく方式が分かれているので参考にしてほしい。

6. 閉会